

# FD NEWS

No.16 2006年3月30日

摂南大学 FD 委員会

〒572-8508 寝屋川市池田中町 17-8

**摂南大学**

## 分かりやすい授業

学生部長 金谷 重樹

寄稿を依頼され、承ったものの、学生部とFD活動との明確な繋がりを見出すことができませんので、以下、一教員としての、しかも講義形式の授業に限定した日頃の個人的感想ないし悩み的一端を記させていただきます。

まず、授業改善の一環として「分かりやすい授業」を行うことの必要性は何人も否定できません。ただ、各受講生の理解力に相当な差があることは厳然たる事実ですから、どのレベルの受講生に合わせた授業を行うべきか悩んでおります。下位の受講生のレベルに合わせた分かりやすい授業は不可避免的に基本的事項に関する説明や解説に時間を要し、その分だけ進行速度が遅くなり、しかも往々にして教授内容の貧困化をもたらしますから、それが上位のみならず中位レベルの受講生にも不評を買うことは明らかです。だからといって中位の受講生のレベルに合わせた授業を行えば、下位の受講生にはわかりにくい授業、上位の受講生には物足りない授業となり、双方から相矛盾する不評を買います。結局、理解力別のクラスを編成しなければならないのでしょうか。

他方、高学歴化と少子化の中で、本学においても残念ながら、たとえば「大学へは行きたくなかったが親が行けと言うので仕方なく入学した！」とか「幼少の頃から勉強が一番嫌いだったし、今も嫌い！」といった、そもそも学ぶ意欲に著しく欠如した学生が少なくありません。このようないわゆる働きアリの法則で全体の2割を占めるとされる受講生に対しては、分かりやすい授業を行うことはどれだけの意味ないし効果があるのでしょうか。このような学生には、授業の内容を理解させる前に、まず、「学ぶ意思」を育む科目を設け、変心させなくてはならないのでしょうか。

ところで、多くの学生がコミュニケーション能力に欠けていることは、企業の採用担当者からも強く指摘されています。そもそも、コミュニケーションは、相手方の表現内容を理解することを要素とし、しかも相手方が常に自己の現に有する理解力の範囲内で表現してくれることを期待できないことから、その成立には、理解に向けた自らの努力が求められます。この点、「分かりやすい授業」は、教員がそのコミュニケーションの相手方である受講生の現に有する理解力の範囲内で表現する作業であり、受講生が理解に向けてする自らの努力を最小限に止めることが求められる作業ではないのでしょうか。そうだとすると、「過剰な分かりやすい授業」は相手方に自己に適合することを求め、自己に適合してくれない者とのコミュニケーションができない学生を生み出すという危険性を孕んでいると感じるのは私だけでしょうか。

いずれにしろ、あれこれと悩み、工夫しながら講義を行っておるところでございます。

## 2005 年度後期公開授業報告のまとめ

FD 委員会副委員長 経営情報学科 山根敬三

2005 年度後期の公開授業は、12月1日(木)から12月19日(月)までの実施期間中に、全学で16科目について行われました。この公開授業科目は、授業内容が優れている、授業の手法が優れている、受講生の評判が良い、等の望ましい基準をもとに各学部(工学部では学科別)で1~2科目選定されたものです。公開授業実施後のアンケートや総評会等を経て取りまとめられた各学部学科からの報告書によれば、授業の進め方は、以下のような、授業のタイプによって相当異なり、

1. 少人数クラスであるか否か
2. 講義形式か演習・実習形式か
3. 専門科目か基礎科目か
4. 文系(科目)か理系(科目)か

一概に評価することには無理がありますが、結果からは、概ね好評であったと評価されます。これらをもとに、授業担当者自身による工夫した点を含む授業内容、または参観者のアンケート等による感想について、FD 委員会において要約し編集したものを以下に掲載します。個別の「内容または感想」の文面については、授業担当者の承諾を得て掲載しています。また、末尾に「全体的な感想」を載せています。

授業科目： コンクリート構造学Ⅱ

内容または感想：

- ・ 講義の冒頭で、前回の講義内容を要約させる小テストを行っており、学生の思考を切り替える効果がある。
- ・ PC 構造の原理を、模型を利用して説明したのが、解りやすかった。

授業科目： 建築材料Ⅱ

内容または感想：

- ・ 授業の最後に、今回のポイントを出席票に書かせて提出させており、効果的である。
- ・ PowerPoint を用いており、講義内容が明確で、説明が理解しやすい。

授業科目： 建築環境工学Ⅲ

内容または感想：

- ・ 講義で用いる PowerPoint 教材を情報センターのサーバ上に置いてあり、授業前に各自で印刷させている。
- ・ 学生の理解を促すため途中に休憩を挟む方がよいとのコメントがあり、来年度から採用予定。

授業科目： 電子材料

内容または感想：

- ・ テキストと問題をプリントで配布し、演習問題を出して、次回提出させる方法を用いている。
- ・ 配布したプリントに書き込むためのスペースを設けているのがよい。
- ・ 全体的なところから詳細に向かって、ポイントを明確にした説明になっている。
- ・ 数式を使う説明は十分丁寧ではあったが、ついていけない学生が居るかもしれない。

授業科目： 材料力学Ⅳ

内容または感想：

- ・ 板書の字の大きさ、マイクの音量は適当である。
- ・ よく学生の名前を覚えており、ときどき学生に指名して答えさせることで、緊張感を持たせる手法をとっている。
- ・ 内容の難易度、説明の仕方はよいが、ペースがやや速く、学生が板書を書き写す時間を考慮すべきとの意見があった。

授業科目： 人間情報工学

内容または感想：

- ・ 板書と PowerPoint、さらにプリントと実機を組み合わせ、学生の関心が低下しないよう工夫がなされた。
- ・ 板書の字のサイズ、声の大きさ、講義スピードは適切であった。
- ・ 最後に、その日の確認 10 分テストを実施し、理解を深めた。

授業科目： 物理学Ⅱ

内容または感想：

- ・ まとまったノートになるように、板書が工夫されていた。
- ・ 私語している学生もいるが、ノートを取る学生が多数いた。
- ・ 2 クラス編成をして授業を実施すれば、もっと理解を深めることができる。

授業科目： 中国語会話表現法 b

内容または感想：

- ・ ネイティブによる北京語言学院流の教授法が大変参考になった。
- ・ 学生全員が集中して教員に应答し、静かながら集中力と活気のある授業だった。
- ・ 学生紹介カード・自己診断カードの採用は、少人数教育では有効で参考にしたい。

授業科目： ドラマ b

内容または感想：

- ・ 実践的な外国語学習に不可欠な、学生をリラックスさせている点は非常に良い。
- ・ 動作と口とを連動させること、学生をペアで学習させること、自己評価させること等、教員とのコミュニケーションも極めて有効で、楽しい授業であった。
- ・ 14名の少人数クラスが、演習のような密度の濃い授業を可能にしていた。

授業科目： 経営管理論（「日本企業の資金調達行動の解明」）

内容または感想：

- ・ 授業全体の流れを示し、教育目標が明確にされていた。
- ・ 各自が選択した企業行動を分析し記述して、自ら問題発見し解決能力を養う工夫がされている。
- ・ 分析結果のコメントをメールで返信し理解を深める工夫がされている。

授業科目： データベース論

内容または感想：

- ・ 専門教科の理解促進のために、学生出欠管理と理解度把握のための小テスト実施が着実になされており、進度把握に工夫がみられた。

授業科目： 経営学特論（リレー式寄付講座の公開授業）「傷害を持つ人達の自立とIT」

内容または感想：

- ・ 未だ社会の理解が不十分な身障者を取り巻く環境の中で、PCやIT技術を活用しながら自立活動を進める過程での問題提起や展望について、学生へのインパクトは大きいようであった。

授業科目： 機器分析学I

内容または感想：

- ・ 国家試験の問題を例題として授業を進めており、適切な内容であった。
- ・ 授業中、学生とのコミュニケーションを取っており、学生を授業にひきつける工夫をしている。
- ・ PowerPointを有効活用しており、わかりやすい授業であった。

授業科目： 食品衛生学II

内容または感想：

- ・ 理解度達成試験により、学生の理解度を有効に把握している。
- ・ 他の科目との関連性に注意を払っている。
- ・ 板書がきちんとしており、話し方が明瞭で、エネルギーッシュな講義であった。

授業科目： 教養特別講義・現代社会の法とジェンダー

内容または感想：

- ・ PowerPoint を用いてデータ等を図表で示しつつ、学生には、要点を空欄にして配布されたプリント資料の併用によって集中力を高め理解を深めるような工夫がなされていた。
- ・ 日本と欧米とのデータの比較を通じて、日本の特徴や問題点が明確にされていた。
- ・ PowerPoint を用いた授業は学生に好評で授業態度も良好であった。

授業科目： 国際私法

内容または感想：

- ・ 授業内容のレジюмеと関係法令等とを区別した資料を配付し、分野ごとに理解度確認テストを実施し、翌週テスト結果を返却することによって学生の理解度を適切に測定して、授業の進捗や方法を柔軟に対応させていた。
- ・ 学生の授業態度も良好で、他の教員の授業にも有意義な手法である。

全体的な感想[ 肯定的な意見]

(公開した先生のメリット)

- ・ 学生の目線で授業を観てもらえる。
- ・ 自分が工夫していることが適切か、効果がありそうかを客観的に判断してもらえる。
- ・ 何をアドバイスしてもらいたいか、評価して欲しい点をアンケート形式で評価してもらうようにすると、参観者のコメントを効率よく収集できる。
- ・ 授業公開は精神的負担が大きいですが、異分野の教員には批判材料よりも発見が多いのではないかと。

(参観した先生のメリット)

- ・ 他人の授業を観ることで、自分の授業の良い点、悪い点に気付く。
- ・ 授業を後ろから観ると、自分が授業をしている時には気付かないことも見える。
- ・ 学生が集中しているか、どんな態度で受講しているか、よく判る。

全体的な感想[ 否定的な意見]

- ・ 公開授業と自分の授業との共通点が見出しにくく、参考にし難い。
- ・ 日程が調整できず、容易に公開授業に出席出来ない。

以上

## 第 12 回 FD フォーラム報告

FD 委員会委員 電気電子工学科 高瀬冬人

3月18日(土) 13:00～15:00、寝屋川学舎 11号館 11階スカイラウンジにて、第12回 FD フォーラムを開催した。今回は学部企画 FD フォーラムの第1回目として、「工学部の教育改革 外部評価に向けた取り組み」のテーマで工学部が主催した。森本学長の開会挨拶に続き、都市環境システム工学科 澤井教授より「工学部の JABEE に向けた取り組み」と題して、JABEE 基準の解説と工学部の取り組みについて報告がなされた。次に、機械工学科 橋本助教授から「金沢工大の視察報告」と題して、金沢工大の工学基礎教育センター、夢考房などの写真を交えた報告があった。続いて、電気電子工学科 井上助教授より「学習支援センターの現状と発展」と題して、センターの沿革、利用者と成績の統計、ビデオ教材の作成、教育センターへの発展に関して報告された。最後に 牛丸 FD 委員会委員長の閉会挨拶で締めくくられた。参加者は78名(工学部55名、他学部15名、事務職員8名)であった。工学部に関する具体的な各講演内容に対して活発な質疑がなされ、いくつかの問題提起を含む建設的意見が出された。

参加者からのアンケートは36枚回収され、「本日のフォーラムは参考になったか」の問いに対して「大変参考になった」、「参考になった」が各17通、「どちらともいえない」、「参考にならなかった」は0通であった(この欄の無回答は2通)。

アンケートに書かれた主なコメントを紹介する。

- ・ JABEE に関して : 「仕組みがよく分かった。工学部だけの問題でなく他学部の支援も必要。教育目標の設定など考え方は他学部でも参考になる。」
- ・ 金沢工大に関して : 「施設の規模に圧倒された。本学の学習支援センターではキャパシティ(教員数)が不足ではないか。」
- ・ 学習支援センターに関して : 「学ぶこと分かることの楽しさから専門科目への興味をかき立てたい。全学化を検討して欲しい。専門科との連携強化、正規科目カリキュラム等へのフィードバックが必要。」
- ・ 学部別フォーラムに関して : 「概論レベルでなく、具体性があり、密度が高くて面白かった。各学部を一巡すべき。」等の肯定的意見が多かった。
- ・ FD フォーラムや FD 活動で取り上げて欲しい話題 : 「キャンパス改築構想、教員の教育貢献評価、地域連携活動」

今回のフォーラムの開催により、次のような効果があったと考えられる。(1) 工学部の教員の共通認識として情報が共有され、いくつかの問題提起を含めて、工学部内の情報交換に役立った。(2) 学長先生はじめ、他学部の先生にも、工学部の活動を紹介できた。(3) 学部企画 FD フォーラムの1つの形が示せた。反省点として、主催学部以外の教職員の参加が少なかったことがあり、今後、PRの方法などに一層の工夫が必要であろう。

以下に、当日講演された3名の方々の報告書を掲載します。

## JABEE に向けた取り組み

工学部教務委員会 JABEE 小委員会 C科 澤井健二

JABEE とは、Japan Accreditation Board for Engineering Education（日本技術者教育認定機構）の略称で、社会の要求水準を満たす技術者教育プログラムを認定し、公表する非政府団体で、2005年現在、89学協会が参加している。既に全国で約180件のプログラムが認定されており、近い将来500プログラムに至るものと予想されている。JABEE認定への取り組みの第1の目的は、教育組織、教職員、学生が一緒になって教育改善への意識を高め、継続的な改善に取り組むことにあるが、その付随の効果として、それを達成したことを証明する外部評価の向上、プログラム修了生に与えられる技術士1次試験免除等の特典がある。JABEE認定基準は、基準1：学習・教育目標の設定と公開、基準2：学習・教育の量、基準3：教育手段、基準4：教育環境、基準5：学習・教育目標の達成、基準6：教育改善の6つからなるが、いずれもかなり厳しい基準であり、それをクリアするには、相当の準備が必要である。それには、学科あるいは学部内の連携にとどまらず、学部を超えた全学的な理解と協力を必要とする。工学部教務委員会では、2004年10月にJABEE小委員会を立ち上げ、学部内の動きおよび他学部との連携の促進を図ってきたが、2007年にはC科、2009年にはA科とB科、それに引き続いてE科、M科が相次いでJABEE認定の申請を行う予定で準備を進めている。ぜひ、全学的なご理解とご支援をお願い致します。

## 金沢工業大学視察報告

工学部 M科 橋本正治

2005年夏に金沢工業大学にJABEE受審に関する情報収集のために視察を行ったが、この際得られた情報の中で、特に(1)工学基礎教育センター、(2)ライブラリーセンター、(3)工学設計教育センター、(4)夢考房について紹介を行った。(1)、(3)、(4)については本学と比較して充実した施設を誇っていた。ただし、人員や施設が劣っているにもかかわらず、本学の工学部学習支援センターによる学生への貢献度合いは高く評価できると感じられた。また、金沢工大ではJABEE受審をきっかけとした教育改革を、大学の生き残りをかけた戦略の一つとして積極的に有効利用していることがよく感じられた。

## 工学部学習支援センターの現状と発展

工学部 E科 井上雅彦

2004年4月に開設された工学部学習支援センターについて、発案・立ち上げの経緯、センタースタッフ、業務内容、教育現場の様子について紹介した。また、学生の利用状況、学生の成績の伸びについて具体的なデータを用いて説明を行った。最後に2006年4月よりセンター学習支援室と改称されることを報告した。報告後の質疑では、(1)数学のビデオ教材につ

いてはどのように計画しているか。(2)教育の対象が工業科特別推薦の学生に偏っていないか。(3)学習支援センターの活動内容が各教員に伝わっていないのではないか。(4)工学部全体として活動を展開していく必要がないか。(5)もっと活動を有機的に結合して行くべき...等の質問や意見があった。今後の検討課題とさせていただきます。

以上

## 『FD活動報告集』刊行のお知らせ

このたび2002年度から2004年度までのFD活動を記録した『FD活動報告集』が刊行されました。内容はFD委員会の活動記録、FDニュース(1号~12号)、FDフォーラムの記録、公開授業の記録、各学部・学科におけるFD活動への取り組み事例などです。この報告書により、摂南大学におけるFD活動の足跡が将来にいたるまで記録されるとともに、今後のFD活動を進めるうえで大きな指針になるものと期待されます。この報告集は各学部事務室・教務課に設置しておりますので、どうぞご参照ください。

## FD関係書籍の紹介

大学の授業改善に関する書籍の出版が盛んです。最近はさまざまな大学での実践例も報告されるようになりました。ここでは授業改善に関する本の中から3冊を紹介いたします。

『大学授業を活性化する方法』高等教育シリーズ 玉川大学出版部

杉江修治・関田一彦・安永悟・三宅なほみ編著 2940円

 学生を動かすのはなかなか大変です。共同学習、対話による学習モデルを紹介。

『大学授業を変える』~臨床・教育心理学を活かした、学びを生む授業法

大阪経済大学研究叢書 古宮昇著 晃洋書房 2100円

 大教室での講義法、授業初日に行うことなど、経験に基づいた提案がいっぱい!

『授業の道具箱』B.G.デイビス著 香取草之助監訳 東海大学出版会 2940円

 カリフォルニア大学バークレー校の教員たちによる授業改善のアイデア集。

また教務課にはFD関係書籍を集めたコーナーがあり、本の貸し出しもしています。閲覧を希望される方は、遠慮なく申し出てください。

**お詫びと訂正** FDニュース第15号に掲載しました「摂南大学第11回FDフォーラムの講演報告概要」の記事におきまして、和歌山大学吉田雅章先生の御所属を、誤って法学部といたしました。正しくは経済学部です。吉田先生には失礼の段をお詫びし、訂正いたします。

### FD委員会から

- ・ 3月18日(土)の第12回FDフォーラム(工学部主催)に多数ご参加いただきありがとうございました。今後も各学部が主催するFDフォーラムが順次開催される予定です。
- ・ 『FD活動報告集』刊行されましたが、FD委員会では引き続き、皆様のご意見を広く募集し、FDニュースなどで紹介していきたいと考えています。随時、メールなどでFD委員もしくは教務課(kyomu@ofc.setsunan.ac.jp)までご意見をお寄せ下さい。
- ・ 次号のFDニュース第17号は2006年6月に発行の予定です。